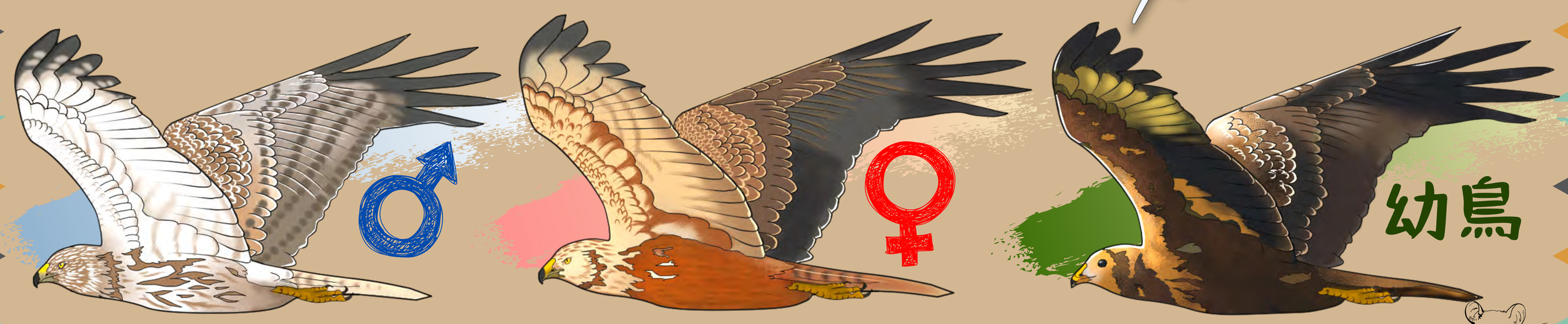
チュウヒを知っていますか？

日本では、湿原に生息・繁殖する唯一の猛禽類。
国内での繁殖つがい数は135ペアと推定されています。
チュウヒは日本最少のタカ科鳥類で、オジロワシよりも
つがいのペア数は少ないと考えられている希少な鳥です。

あれ？色が違う…

チュウヒはオス・メス・幼鳥で羽の色が異なるとても面白い鳥です。
模様も個体によってそれぞれ異なり、よく観察していると見分けることもできます。
もしチュウヒを見つけたら、年齢や個体による色や模様の違いを観察してみましょう！



なにを食べる？

餌はネズミ類がもっとも多く、その他には小鳥、カエルやヘビ、魚などを捕らえます。
狩りの名手であり、通り過ぎるふりをして身体を翻して獲物を急襲します。

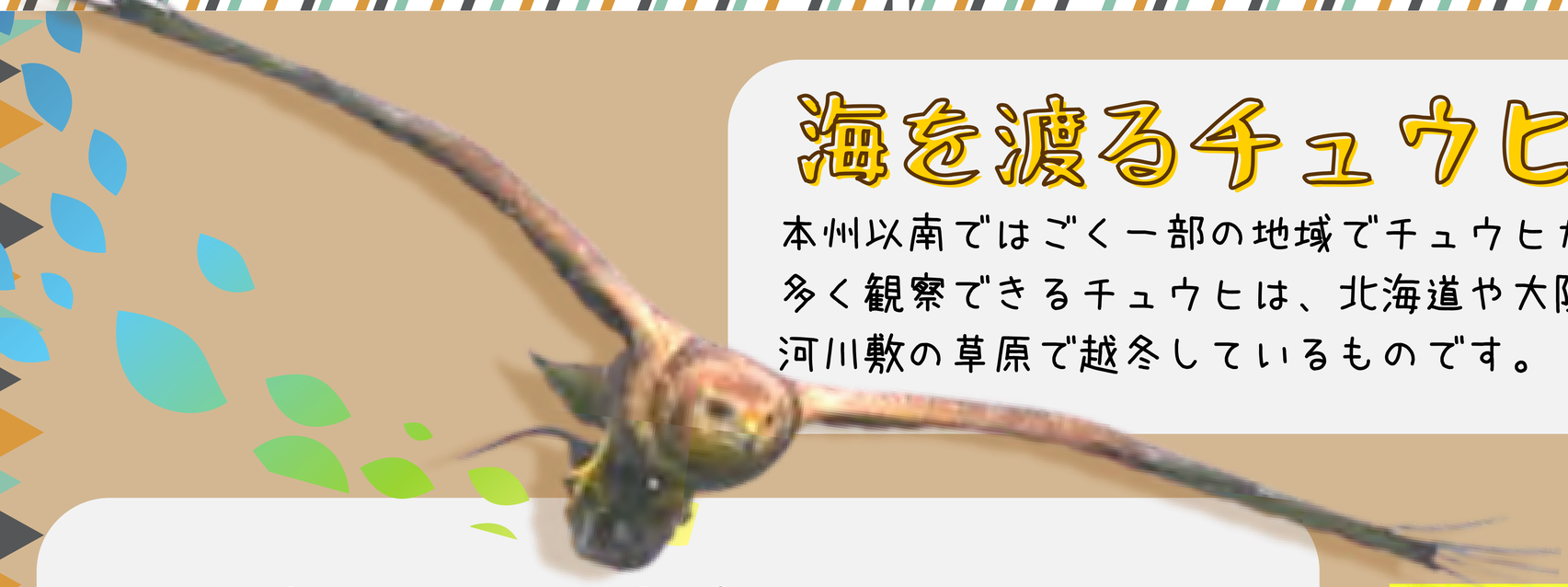
チュウヒの顔は人間のように平面的なため、両目でしっかりと獲物との距離や位置を捕捉することができます
また、平面的な顔はフクロウ類と同様に集音効果が高く、
耳も大きいため、発達した聴覚機能も利用して獲物を探索しています。

ちょっとかわった飛び方

両翼を浅いV字型に保つ『滑翔』と、羽ばたきを繰り返しながら、風上に向かって低く飛んで地上の獲物を探します。
風がある日には停翔飛行（ホバリング）も行なうことができます。

チュウヒの名前は『宙飛』が由来とされていますが、実際は低空飛行を得意とします。
体色が似ており、同じような場所にいて同じようにふわふわ飛ぶトビによく間違えられますが、
トビはチュウヒと異なりV字飛行をしませんので、そこで区別できます。

チュウヒはどこに住んでいるの？



海を渡るチュウヒ

本州以南ではごく一部の地域でチュウヒが繁殖していますが、冬になると多く観察できるチュウヒは、北海道や大陸から渡ってきた個体が干拓地や河川敷の草原で越冬しているものです。

見られる場所は？

北海道ではヨシ原やササ原・草原や水辺で生息しています。

本州ではチュウヒが繁殖できる湿原環境がほとんど残っていないため、干拓地・埋立地・河道調整後河川敷など人工的な環境で、わずかにしか姿を見ることができません。

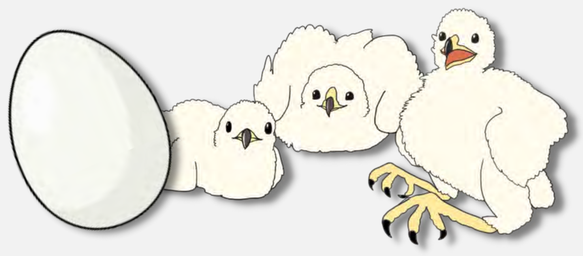
出典：環境省「チュウヒの保護の進め方

北海道北部における繁殖ステージ

チュウヒの繁殖

・本州以南では3月から北海道では4月に飛繁殖が始まります。
・冠水したヨシ原またはササ原の地上に巣を作ります。
・卵数：3-6 抱卵期間：約1か月　雛数：1-4　巣外育雛：約1か月

ドローンで撮影した巣の写真（北海道北部）



希少種から脱するために

【つがい数の減少】

〇本州以南：2010年頃まで＝40～50つがい前後→2020年＝19つがい
（減少要因）、繁殖地の埋立・植生遷移（ヨシ原→灌木・樹林化）のほか、太陽光発電など、カメラマンの接近。
〇北海道：特に北海道東部（十勝・釧路・根室・網走エリア）で大きく減少。石狩川流域でも4割程度減少。
（減少要因）湿地の乾燥化による営巣環境の減少、道路や太陽光発電所の建設などの開発行為、河川敷の樹林化。

【保護に必要なこと】

〇湿原環境の維持
・埋立・干拓地、河川敷での植生遷移の人為的管理・継続的な繁殖の促進・新たな湿地環境の創出
〇人為的影響のコントロール
・人間がチュウヒの繁殖地に近付かないようにする
→地域の関係者（住民・開発事業者）との繁殖情報の共有や周知と、
　繁殖への配慮ある行動（工事場所や時期の変更等）の徹底
→カメラマン等が巣などに接近しないよう呼び掛けを強化
→外来種（アライグマ等）対策…被害状況の把握
　※チュウヒは地上で繁殖するため警戒心が強く、人間や捕食者の接近に敏感に反応

公益財団法人 日本野鳥の会 Wild Bird Society of Japan　サロベツ・エコ・ネットワーク　制作：サロベツ・エコ・ネットワーク／監修：（公財）日本野鳥の会

サロベツ湿原とチュウヒ

サロベツは国内最大の繁殖地!

サロベツにはこれまでもチュウヒが繁殖することが知られていましたが、
近年の調査でサロベツ周辺がチュウヒの国内最大の繁殖地であることがあきらかになりました。

つがい数（2018～2020年繁殖状況調査結果）

北海道　：116（うち、サロベツ周辺 57）
本州以南：19　（2010年 40-50から半減）
全体　　：135

全国の42%・北海道の49%がサロベツにいることになります！

ちょっと違う、サロベツのチュウヒ

・チュウヒは本州以南やロシアにおける事例からヨシ原で繁殖すると考えられてきました。しかし、サロベツ周辺では地上部に水面がないササ原のやや地上から浮いた部分に巣を作ります。北海道の道北以外の地域や本州以南ではヨシ原で繁殖しているので、ササ原での繁殖はこの地域特有の文化かもしれません。

・サロベツも明治以前の開発される前は、ササ原が少なく、高層湿原やヨシ原が広がっていました。その時はチュウヒはヨシ原で繁殖していたのでしょうか？開拓と湿原の乾燥化に伴い、繁殖環境をヨシからササに変えた可能性もあります。湿原の乾燥化の象徴であるササ原化がチュウヒにとっては利点になったかもしれません。

・チュウヒは平原で繁殖すると考えられてきましたが、サロベツ周辺の一部では丘陵沿いのササ原でも繁殖します。湿原からあふれ出てきたチュウヒが丘陵地にまで分散してきた可能性があります。

・サロベツ周辺の繁殖成功率は他の地域と比較して高いです。サロベツにおける餌などの繁殖環境が良いためと考えられています。

サロベツ周辺における
チュウヒと産業との共存のために

チュウヒの巣は周りから見えない

チュウヒは日常的に行われる農作業には慣れやすい鳥ですが、地上に巣を作るため、巣の存在に気付かれないまま繁殖地やその周辺で工事等の作業が進められてしまい、その結果、繁殖をやめてしまうことがあります。

この他にも、採餌場所や営巣地の周辺での観察や調査、カメラマンの接近にも敏感に反応しますので、もしチュウヒを発見しても後を追ったり、車両等から降りて観察しないようにしてください。

チュウヒへの配慮のための情報提供

このため私たちは、開発事業者や行政機関に対して事前に調査した繁殖情報を提示することにより、チュウヒへの配慮をお願いしています。

チュウヒの巣の3/4が国立公園外

サロベツ原野のチュウヒは牧草地やその周辺の草原環境を餌場にしていることが多いため、国立公園の中よりも牧草地に面したササ原、中には牧草地に囲まれて取り残された場所に巣を作ることが多いです。
サロベツ原野のチュウヒの巣の1/4は国立公園内にあり、国による保護対象地になっていますが、それ以外は農地や原野などの民有地であり、保護が担保されていない場所に多くが暮らしています。

チュウヒ保護区の設立

サロベツには国立公園以外で農業に利用されていない土地が残っており、このような環境でチュウヒが繁殖することが多くなっています。
私たちはそのような土地を寄附を募って購入することにより、チュウヒの繁殖環境を残していくことを目指しています。

報告会の開催・展示・商品開発

チュウヒの生態について勉強し、保全の重要性を広く普及啓発するために報告会を開催しています。
報告会へは保全関係者だけでなく、開発関係者も多く参加しています。
チュウヒについてより知ってもらうために、サロベツ湿原センターにおける展示や関連商品開発、チュウヒや野鳥観察ツアーや出前講座などもについても今後力を入れて行きます。

公益財団法人 日本野鳥の会 Wild Bird Society of Japan
サロベツの大地とあなたを結ぶ サロベツ・エコ・ネットワーク
制作：サロベツ・エコ・ネットワーク／監修：（公財）日本野鳥の会